

課題解決力向上プロジェクト学習

神奈川県政策研究・大学連携センター

岸本 啓

神奈川県では、県内大学・企業団体と連携して大学生の社会人力向上を目指した「課題解決力向上プロジェクト学習」を実施した。これは、企業等の現場での職業体験を取り入れた特色あるプログラムであるが、大学生の「課題解決力」の向上に資するとともに、協力した企業・団体にとってもメリットのある取組みとなった。

1 実施の背景

神奈川県では、大学生の「就業力¹」を向上させるべく、3年間のモデル事業として大学・地域・行政の3者が連携したインターンシップ事業（主に3年生を対象）を平成23～25年度に実施した²。

近年、インターンシップは多くの企業や大学で広まってきている。しかし、本県では就業力にとどまらない、社会人として活躍するために必要とされる力、すなわち「社会人力」までも向上させることが、必要とされているのではないかと考えた。そこで、大学や企業と連携して、大学生に社会人力につながるような地域の課題を提示し、その解決策を検討してもらう取組みが有効ではないかと考え、ニーズ把握や具体的な制度設計に向け、大学に対し調査³を実施した。この調査結果を踏まえて事業化したのが、「課題解決力向上プロジェ

クト学習」である。

具体的には、2年生に向けたキャリア教育の一環として、社会体験型のプログラムとしていることが特色である。

これは、インターンシップ事業では、学生が課題や目的意識を明確に持って臨んだ場合⁴には、「社会人力」までも大きく伸びることが発見できた経験から、このように大学生に現場を体験してもらうことが重要と考えたためである。

なお、全体のプログラム設計にあたっては、フェリス学院大学の春木良且教授から多大な助言・指導をいただいた。



事前研修の様子

1 ここでは「社会人としての基本的な振る舞いができることなど、学生が職業に就く際に必要とされる基礎的な力」一般を指す。

2 神奈川県版インターンシップについては、『かながわ政策研究・大学連携ジャーナル』（2013年10月）pp.9-12を参照。

3 県内大学からは、①アクティブ・ラーニングなど課題解決型の学習は重要であるが、学内で体系的に実施出来ていない、②3年生には就職活動支援をする機会があるが、2年生へのキャリア教育が手薄となっている、③大学と企業との間の橋渡しを行政に期待する、といった声が聞かれていた。

4 具体的には、本モデル事業に協力したあるインターン受入企業で、①企業経営上の課題を参加学生に提示し、②インターンシップを通じて解決案を考えさせ、③最終日に発表会を実施する、という一連の研修プログラムを作成・実行した。

2 課題解決力向上プロジェクト学習

(1) 概要

今回の「課題解決力向上プロジェクト学習」は、①県内大学に在籍する2年生が、②インターン先となる企業等からあらかじめ課題を与えられ、③当該企業等での職業体験を通じて、④具体的な解決策を提案する、という取組みである。

県では、様々な関心を持った学生が参加できるよう、営利・非営利を問わず多様な課題を企画・提供することとした。

(2) 実施内容（図表1参照）

ア 企業等への協力依頼

インターンシップ事業で協力を仰いだ企業等を中心に、8つの企業・団体から学生の受入の協力を取り付けることができた。

イ 学生の募集

県の準備した募集要項（当プログラムの目的、協力企業等からの具体的な課題等を記載）の内容に賛同した7大学が学生の募集を行い、計25名の2年生が参加した。

図表1

【プロジェクト学習の参加者・日程等】

1 参加学生（25名）

県内にキャンパスを有する大学に在籍する大学2年生 25名（神奈川大学6名、横浜商科大学5名、文教大学4名、相模女子大学3名、東京農業大学3名、フェリス女学院大学3名、湘南工科大学1名）。

2 協力企業・団体（8先）、学生に提示された課題

- (1) 株式会社吉野家ファーム神奈川 「農業生産法人の可能性を考える」
- (2) 岩井の胡麻油株式会社 「岩井の胡麻油を若い世代にアピールするためには？」
- (3) 特定非営利活動法人湘南市民メディアネットワーク 「映像製作を通じて社会貢献・地域活性化を考える」
- (4) 株式会社リビエラ東京 「魅力的な結婚式について考える」
- (5) 江の島ピーエフアイ株式会社 「10月11日～13日に開催する『ECOまつり』の補助・運営」
- (6) 公益社団法人横浜カントリー&アスレティッククラブ 「8月23日に開催する外国人会員向け『プールパーティー』の企画・運営」
- (7) よこすか葉山農業協同組合 「地域に信頼され、支持される農業へ向けて」
- (8) 神奈川ワーカーズ・コレクティブ連合会 「ワーカーズ・コレクティブ運動によって解決できる地域ニーズの事業化」

3 日程

- (1) 学生募集：4月下旬～5月下旬
- (2) 選考・職業体験先決定：6月上旬
- (3) 事前研修：6月29日、7月6日（計10時間）
- (4) 職業体験：8月6日～9月19日（最短5日間～最長20日間）
- (5) 中間報告：9月中旬（各チームが研修講師・事務局と報告資料案について個別に打ち合わせを実施）
- (6) 成果報告会：9月28日

ウ プロジェクト学習の内容

(ア) 事前研修

事前研修は2日間にわたったが、まずは、25名が今後一緒に行動することとなる8チームに分かれて、自己紹介など「チーム・ビルディング」を行った。そして、チーム・メンバーが相談・協力しながら、職業体験を予定している企業等が提示した課題を理解し、その背景や業界の動向・事業内容をチーム全体として把握することを目指した。また、チーム内で意見を出し合い、課題に対するいくつかの提案（仮説）に絞り込む作業も行った。

このほか、成果報告会に向けた「伝わるプレゼンテーション」、「ビジネス・マナー」についても学習した。

(イ) 職業体験

職業体験では、各チームは協力企業等において業務の一端を担いながら、企業活動の理解を深めたほか、具体的な体験を通じて、事前研修で絞り込んだ提案（仮説）を検証し、再検討を行った。

【職業体験の具体的な内容】

- ・営業現場や問屋などに同行することにより、流通やビジネスの実態を学んだ。
- ・地域で活躍する団体を紹介する商業チャートを作成するため、撮影許可の取得、撮影、編集作業を行った。
- ・あるイベントの企画・運営を全面的に担い、子どもの喜ぶゲームの選定や、赤字を出さないための入場料の設定などを検討した。

(ウ) 中間報告

中間報告では、各チームは研修講師・事務局と個別に打ち合わせを実施し、職業体験で検証した提案（仮説）のブラッシュアップを行うとともに、講師から成果報告会で使用するプレゼンテーション資料についての助言も得た。

【仮説の検証・再検討の状況】

- ・提案（仮説）の方向性は間違えていなかったが、実際に職場に行ってみたところコストがかかることが分かったことから、コストを節減する工夫を加えた。
- ・当初の提案では収益性がないことが分かったため、収益性を見込めるより現実的な内容に変更した。
- ・書面で考えた企画を、職業体験の現場でデモンストラクションを重ね、精度をあげることでイベントを成功に導いた。

(エ) 成果報告会

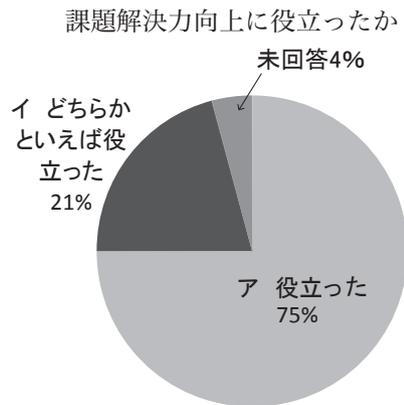
成果報告会では、各チームが協力企業等を前に課題解決提案のプレゼンテーションを行った。

【課題解決提案の例】

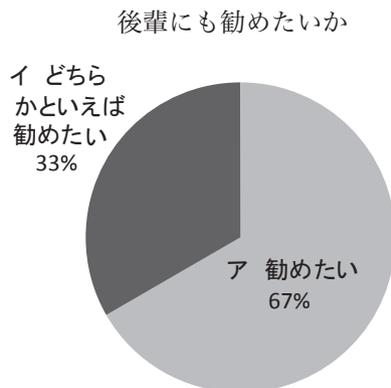
- ・これまで廃棄されていた玉葱の皮の活用
- ・コンビニエンス・ストアへの商品の供給、SNS、商品 POPの活用
- ・周辺の観光地と連携した集客
- ・農産品直売所における、旬の野菜が一目でわかる一覧表の作成
- ・配達事業と連携した、主婦や一人暮らし向けの献立の提供

3 評価

ほとんどの学生が「課題解決力の向上に役立った」と回答するなど、参加学生及び大学側の満足度は非常に高かった。また、協力企業等からも「企業経営によい気づきをもらえた」など好評であった（図表2～4参照）。



図表2



図表3

4 今後の課題

(1) 参加学生数の拡大

大学からは、就職活動などで接点が多い3年生と違い、2年生には周知が難しく、大勢の学生の参加が得られにくかったとの意見が聞かれた。意欲ある学生にどのように周知するか、一層の工夫が必要である。

(2) 企業の協力獲得

企業側では、設定課題やイベントの実施時期が当プログラムの日程に合わず、学生の受入を諦めた、との事例が見られた。当プログラムでは夏休みの時期を職業体験に充てているが、協力企業を増やすためには、実施日程の拡充等を検討することも必要となろう。

(3) 大学との連携拡大

参加大学では、当プロジェクト学習と通常のインターンシップとの質的な違いは十分に理解され、事後評価も高かったが、他大学では必ずしもそれが十分に認知されているとはいえない。今後は、今回の成果を広く示すことなどにより、参加大学を増やしていくこととしたい。

また、大学が当プロジェクト学習に留まることなく、課題解決力の向上に向けた様々な取組みを積極的に行うよう、促していきたい。

5 おわりに

「課題解決力向上プロジェクト学習」は、大学生の課題解決力の向上のみならず、協力企業等にもメリットのある取組みであることが分かった。

今後とも、より多くの大学生の課題解決力が向上するよう、努力していきたい。

図表4

【学生の感想】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 貴重な体験ができた。自分の課題や自分の良いところが見つかった。 ・ 自分の本当にやりたいことを改めて考えることができた。 ・ 自分で解決案を考え、答えを出せたことはとてもよい経験になった。 ・ 2年生でこの取組に参加したことで就活への意欲が高まった。
【企業等の感想】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生の視点でイベントを実施したことは、貴重な経験と蓄積になった。 ・ 提案は費用対効果に優れており、すぐにでも実行していきたい。 ・ 学生ならではの視点で改善点を提案してくれた。